



The 22nd Annual Meeting of Japanese Society of Geriatric Urology

第22回 日本老年泌尿器科学会

プログラム および 抄録集



高齢泌尿器癌患者のためのチーム医療

平成21年5月8日(金)・9日(土)

会場：京都テルサ (京都勤労者総合福祉センター)

会長：三木 恒治 (京都府立医科大学泌尿器外科学 教授)

OS03-2 排泄介護現場で用いる各種超音波尿量計測装置の精度判定

岩坪 暎二¹、八木 廣朗¹、永沼真由美²、関屋じゅん²、花田 千秋²

¹北九州古賀病院泌尿器科、²北九州古賀病院看護部

目的：高齢者の合理的な排尿管理には膀胱機能の把握のために残尿量の測定が欠かせない。膀胱容量測定に使用される3種の超音波計測機器の信頼度を検討した。対象：健康成人延べ45名で実施した。方法：被験者が尿意を認識した後、1) 超音波診断装置(縦cm x 横cm x 高cm/2で計算)を使って検査技師(選任の2名)が測定後続いて2) ブラダスキャン 3) ゆりりんを使って選任看護師2名が3回測定し、残尿予測値の平均と、測定後に排尿した尿量を比較した。結果：1) 各装置とも測定値は排尿量値より少なく、測定誤差率は、超音波診断装置で30%、ブラダスキャンで20%、ゆりりんで25%となった。2) 排尿量実測値に対してブラダスキャン測定値に有意差はなかったが、ゆりりんと超音波診断装置はともに有意差があった。3) 超音波診断装置とブラダスキャンとゆりりん三者の測定値間には有意差がなかった。考察とまとめ：3種の各機器は残尿測定の臨床応用に耐えると思われるが、超音波診断装置による計測値(縦 x 横 x 高 / 2)に最も誤差率が高かったのは膀胱の形態学的変化を反映できないため残尿測定には使えず、専用のポータブル超音波尿量測定装置2機種は排泄介護の現場での必需備品と考える。